

# < 健診事業のあり方研究会 >

## 2022年度 活動計画

(2022年3月24日)

### 研究会の目的

**健診**項目、**受診**勧奨、事後**フォロー**等のあり方について、**あるべき姿**を追求し、各健保の今後の取組みに寄与する。

### 2022年度にやりたいこと (案)

#### ～**がん検診**～

これまでの取組みを深掘りして、がん検診の受診**案内**から要精密検者の**把握**、そして二次検診受診**勧奨**とその結果の**把握**まで、がん検診事業の**一連の流れ**について基本的な**ポイント**を整理する。

< 過去の取組み例(～2018年度) >

○「健診**ガイド**」の作成



「**スマート**健診」プログラムの構築  
事業主とのコラボ策



「**ヘルスリテラシー**」向上

○**被扶養者**健診 受診率向上



健保の実態解析による**有効策**を抽出（統計処理）

- ・受診**勧奨の回数**が多い
- ・受診申込・受診勧奨は複数の**方法を組み合わせる**
- ・**事業主**の協力がある

～ 衝 撃 ～

2018年3月に厚生労働省から

「**職域におけるがん検診  
ガイドライン**」 発表

それまでの健保におけるがん検診  
は、福利厚生の一つ



国の指導に従う必要？

2019年度の研究会活動から  
**がん検診** に取り組む

○2019年度

テーマ：**ガイドライン**の**理解**

- ・ 読んで勉強
- ・ **国立がん研修センター講師**の講演
- ・ 健保の現状との**違い**

⇒ 課題

- ① メリットだけでなく**デメリット**を伝える
- ② 受診者や検査機関を**管理**する

2020年度 テーマ：がん検診の**デメリット**を伝える

**< 成 果 >** 以下を整理することで実施時の「教科書」に

1. **なぜ伝える**のか
2. 伝えることへの健保にとっての**リスク**
3. 伝え方について
  - (1) メリット・デメリット以外の**表現を考える**
  - (2) **避けた方**が良い専門用語、代替案
4. 参考になる資料

## 2021年度 テーマ：がん検診の**精度管理**

～検診対象者・受診者の情報管理、プロセス指標（要精検率）の集計～

### < 成 果 >

1. **精度管理マップ** の作成  
（各健保どこまでできているのか）  
⇒全体としての課題が明確に
2. 受診者把握 から 要精検者把握 に  
**ステップアップするための必要事項**、ヒント を整理  
⇒ **「やりっぱなし」はダメ**よ！

※横軸を各データ、縦軸をそのデータを基に算出した率とした精度管理の実施状況を示した表

精度管理の  
マップ

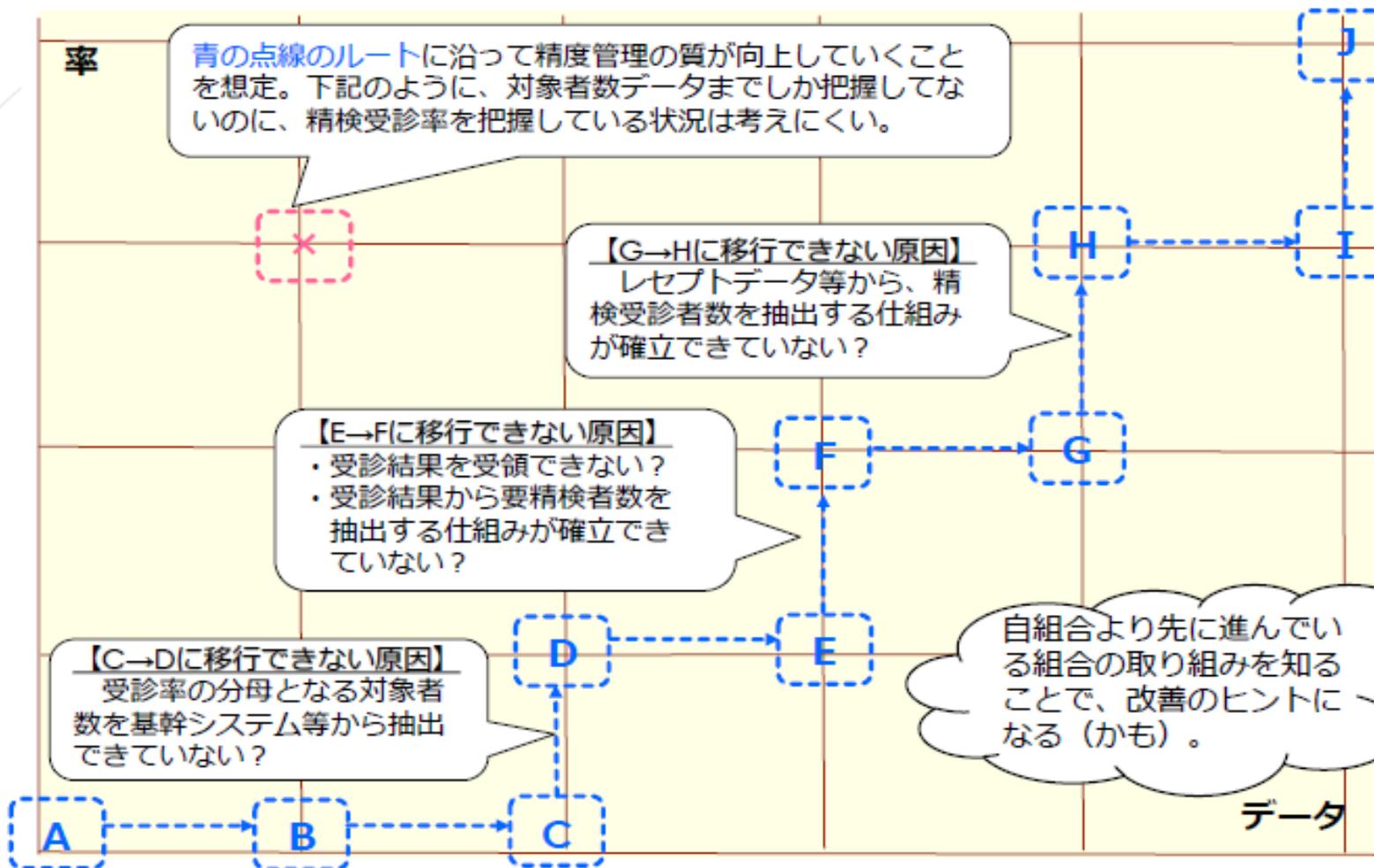
がん発見率

精検受診率

要精検率

受診率

率



青の点線のルートに沿って精度管理の質が向上していくことを想定。下記のように、対象者数データまでしか把握していないのに、精検受診率を把握している状況は考えにくい。

【G→Hに移行できない原因】  
レセプトデータ等から、精検受診者数を抽出する仕組みが確立できていない？

【E→Fに移行できない原因】  
・受診結果を受領できない？  
・受診結果から要精検者数を抽出する仕組みが確立できていない？

【C→Dに移行できない原因】  
受診率の分母となる対象者数を基幹システム等から抽出できていない？

自組合より先に進んでいる組合の取り組みを知ること、改善のヒントになる（かも）。

把握していない

対象者数

受診者数

要精検者数

精検受診者数

がん罹患患者数

データ

## < 健診事業のあり方研究会 >

「精度管理マップ」のA～Dに位置づけられる健保がE,Fに行くための実践している事例を紹介しあう

(健保の役割：要精検者を把握し二次検診の受診勧奨をすること)

### < 原因・要因 >

1. 要精検者を把握できない原因は？
2. 要精検者に適正に受診勧奨するには？

< 成 果 > 各健保の実践例：以下の項目に分けて実践例を整理、共有

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| ①補助金検診     | ②検診機関ごとに判定基準がバラバラ |
| ③精密検査の受診勧奨 | ④精密検査の受診確認        |

## ～2022年度 活動計画案～

< 基本方針 > : 「がん検診」に継続して取り組む

- 精度管理**の深掘り、**未着手**の課題に取り組む  
(ex : 精度管理の「受診者や要精密検者への説明」)
- 研修会成果を活かすことができているかを**モニタリング**する。
- これまでの取組みをさらに**深掘り**して、がん検診の**受診案内**から**要精密検者**の把握、そして**二次検診受診勧奨**とその**結果の把握**まで、がん検診事業の一連の流れについて基本的な**ポイント**を整理する。

< 研究会の運営（基本） >

1. 1回/月、2h程度、**Teams**にて
2. **Group討議** を中心に  
(討議後は、全体共有、結果をメモで残す)
3. 開催後は、運営委員で振り返り、次回案の検討

< 大切にしたいこと >

1. 研究会メンバーのみならず推進する会健保に役立つものをOutputしたい。
2. メンバーは情報収集（自分の役に立つ）だけでなく情報提供（他者の役に立つ）も。